

生活の回復に向け、社会福祉士の支援を

●緊急支援から生活復興期へ

東日本大震災発生から4カ月以上が経過しました。被災地では仮設住宅が急ピッチで建設され、避難所から仮設住宅への入居が進んでいます。災害直後の緊急対応から生活を復興していく時期への移行段階であり、「仮の住まい」にて、少しずつ従来の生活機能を回復している時期といえます。

一方、仮設住宅に移行した後も、これまで避難所では受けることができていた見守りや食事等の諸支援が仮設住宅入居後には届かなくなる、住み慣れた地域を離れ、親しい近隣の方とのつながりが途切れてしまう、病院や買い物など日常生活を営む上で必要な機関を探さなくてはいけない等、新たな課題も生まれています。長い避難所生活で疲労が蓄積した中、被災者の方々はいのち・くらしを支える基盤を一から再構築せざるをえない状況があります。また、仮設住宅への入居はゴールではなく、あくまでも「仮の住まい」であり、被災者の方々は依然として不安定な状況を抱え続けています。



●今こそ社会福祉士の力を被災地へ

このような状況の中、被災地からはボランティアの減少が報道され、また緊急支援の専門職や支援機関が徐々に撤退しています。

6月に行われた京都大会では、被災地支援に寄せて「私たちは、被災された方の生活が元に戻り地域が復興することを見据えた、長期にわたる継続的な支援を組織的に行います」と謳った「大会宣言」が採択されました。被災者が生活を回復していく上でとても重要なこの時期こそ、不安や生活課題を抱える被災者に寄り添い、孤立を防止し、身近な地域内に人と人の関係を紡ぎ、利用可能な制度・サービスを必要な方につなぐ等、くらしの再構築に向けたソーシャルワーカーの支援機能が求められています。



●活動ボランティア募集中！ぜひご登録ください

本会では、被災地の自治体より要請をいただき、地域包括支援センター等の支援機関が本来の機能を回復し、支援を展開していくためのサポートを継続して行っています。被災地で活動する会員の思いがこもったバトンが、今もつながり続けています。このバトンを今後もつないでいくためには、会員のみなさまのご参加とサポートが不可欠です。



本HPには、「本会の被災地支援活動について」の説明と、被災地支援者登録フォームを掲載しています。本会の被災地支援活動の趣旨にご賛同いただける会員のみなさま、ぜひ被災地活動へのご登録をいただきますよう、よろしくお願いいたします。